

二十歳の誓い

私は4人兄弟の母子家庭で育ちました。母はいつも仕事をしていたので、幼い時の記憶に母の姿は少ししかありません。かぎっ子だった私は、友達の家遊びに行くと「おかえり」と聞こえてくるのが羨ましくて仕方ありませんでした。10歳と11歳離れた妹と弟が生まれた時も、小さい兄弟の世話をするのは楽しかったのですが、正直母には、もっとこっちを見てほしいと思っていました。

中学校に上がると、私の反抗期が始まりました。一緒にご飯を食べるのも嫌で、母には勝てないと本心では分かってはいるものの、口なら勝てると思ひこんで必死に口答えをして、反抗していました。

中学1年生で生徒会に入り、人前に出る機会が多くなり、注目を浴びるようになった頃から、人に認めてもらった時の喜びや、嬉しさに気づき始めました。中学の生徒会は私の居場所でした。そして、人前に出ることがとても好きになり、もっと色んなことをしたいと思い、高校に進学しました。

高校でも生徒会に入りましたが、中学とは全く違う生徒会の方針になかなかなじめず、すぐにやめてしまい、バイトにのめりこみました。バイト先では最年少だったので、年上の人たちに構ってもらえるのが嬉しくて、家に帰る時間はどんどん遅くなりました。毎日、学校とバイトの往復で、母と顔を合わす時間も朝の10分程度。顔を合わすのも嫌なくらいまだまだ反抗期でした。

そんな高校三年生の頃に、コロナがはやり始めたのです。学校にもバイトにも行けなくなり、仕方なく家にいると、家族と関わる機会が多くなりました。家族と顔を合わせて話をするようになると、意外と家族といるのは楽しいなと思えるようになりました。コロナのおかげで、家族の絆を少し深められた気がします。

私は、今、大学で社会福祉を学んでいます。その授業の中で、世の中にはいろんな家庭があり、しんどいのは自分だけではない事を知りました。そして、今3つの資格と免許を取るために毎日学校に通い、免許を取る関係で、通信制の大学にも通っています。通信制の大学は奨学金がでないため、バイトで稼ぐ日々です。親に頼らず生きるためにはお金が必要です。毎日学校とバイトの往復ですが、今を目一杯生きています。私は、これからも働く事と学ぶ事を、ずっと続けていきます。このことを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

本日は、私たちのためにこのような盛大な記念式典を開催して頂きまして、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

令和5年1月9日 新成人代表 高山 夢菜